

定員：20名 参加者数：24名

講師：田幡浩一

内容：作家の制作を追体験できるドローイングワークショップ

②日光写真ワークショップ

日時：5月5日（金・祝）13:00～16:00

定員15名 参加者数：19名

講師：三宅砂織

内容：カメラを使わずにドローイングや日用品を日光の力を使って紙に焼きつけ

③学芸員によるギャラリートour

日時：4月1日（土）、5月14日（日）14:00～

参加者数：11名（4/1）、9名（5/14）

④こどもアート探検

日時：3月25日（土）、5月21日（日）14:00～

対象：小学生以下

参加者数：25名（3/25）、11名（5/21）

□展覧会開催のねらい

① 新たな観客の獲得

⇒原美術館、東京都現代美術館に作品が所蔵されている田幡浩一、新進気鋭の平面作家が推薦されるVOCA展にて2010年にVOCA賞を受賞した三宅砂織と、両名ともキャリアを重ねているが、近年では関東近郊での発表が少なかった両名を紹介した。

⇒これまで映像や立体、インスタレーションなどの作品を多く展示していた中で、絵画が観たいというアンケートも多くあった。写真やドローイングといった平面作品を使いながらも現代的な表現を行う2名を展示することで、Art Meetsのねらいでもある「アートに出会う」ことを試みた。「難解」「よくわからない」のような意見が少なかった。

② 鑑賞体験の広がり

⇒両作家の共通点から「見ることから広がる想像力」をテーマとした。作家の作品・表現から鑑賞者の中に喚起される動きや記憶をテーマとすることで、受動的ではない鑑賞のあり方の提示を試みた。

□展覧会で行なった新たな試みと成果

作家の制作手法や考え方を追体験できるワークショップを開催し、楽しみながらも作品理解を深めることのできるイベントを開催した。ワークショップのアンケートの集計からもほとんどの方に満足いただけた。（田幡浩一「円の縁」、三宅砂織「日光写真ワークショップ」）

□アンケートの集計からの評価と反省点

「新しい表現を知ることができた」「毎回見てみたいと思うほど興味がわいた」という本展の主旨でもある、アートとの出会いや中堅作家の「紹介」に好意的な意見をいただいた。

一方で、「説明（案内）がほしい」「ギャラリートツアーに参加してわかったことが多い」との意見もあり、これまでに引き続き会場での説明や展示の工夫を検討していきたい。

「加藤アキラ 孤高のブリコロール」展



□会 期：3月18日（土）～5月30日（火） 65日間

□開館時間：11:00～19:00（入場は 18:30 まで）

□休 館 日：水曜日（5月3日（水）は開館）

□会 場：アーツ前橋 地下ギャラリー

□観 覧 料：一般：500 円／学生、65 歳以上、団体（10 名以上）：300 円

／高校生以下：無料

※4月16日（日）は「前橋中心商店街ツナガリズム祭り」のため観覧無料

※障害者手帳等お持ちの方と介護者1名は無料

※トワイライト割（17:00 以降にご来館された方）：300 円

□主 催：アーツ前橋

□後 援：上毛新聞社、朝日新聞社前橋総局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、
産経新聞前橋支局、東京新聞前橋支局、日本経済新聞社前橋支局、共同通信
社前橋支局、時事通信社前橋支局、群馬テレビ、FM GUNMA、まえばし CITY
エフエム、前橋商工会議所

□出品点数：約 200 点

□入場者数：3,122 人 一日あたりの平均来館者数：約 48 人

□印刷物：■ポスター：1,500 部、■チラシ：40,000 部／■館内マップ：5,000 部
■図録：1,000 部

□関連事業

① ワークショップ「加藤アキラと作る竹作品」

日時：4 月 29 日（土）14:00～18:00

会場：アーツ前橋 地下ギャラリー

定員：40 名（要事前申込）、参加者数：37 名

参加費：無料（要観覧券）

講師：加藤アキラ、寺澤徹（デザイナー（寺澤事務所・工房 代表））

内容：竹を割り、竹かごの編み方で作品作るワークショップを行います。完成した作品は本展会期中、アーツ前橋ギャラリーにて展示した。

② 田中泯(みん) ダンス「物とカラダの間で」

日時：4 月 23 日(日)/5 月 28 日(日) 13:00～18:00

会場：アーツ前橋 地下ギャラリー

参加者数：311 名（4/23）、450 名（5/28）

踊り：田中泯（舞踊家）

内容：1989 年、加藤アキラの作品と共演した田中泯が、再び加藤アキラの作品とアーツ前橋を場として踊った。＊上記の時間内に複数回

③ トーク「アート思い出ばなし」

日時：5 月 6 日（土）14:00～16:00

会場：アーツ前橋 スタジオ

出演：加藤アキラ、吉田富久一（美術家）、染谷滋（元群馬県立館林美術館長）、
福住廉（美術評論家）

定員：約 30 名（申込不要）、参加者数：39 名

内容：加藤アキラの活動を振り返るトークセッションを行った。

④ 「学芸員によるギャラリートour」

日時：4 月 1 日（土）、5 月 14 日（日）14:00～

参加者数：19 名（4/1）、12 名（5/14）

内容：担当学芸員による作品の解説ツアー

□図 録

定価：2,000 円（税別）

仕様：B5 変形、表紙デザイン 2 種（① 館内販売版ケース付き、② 書店販売版ソフトカバー）

デザイン：星野哲也

発行日：4 月 30 日（株）現代企画室より発売

□展覧会開催のねらい

① 新たな観客の獲得・・・関連イベント・田中泯「物とカラダの間で」

⇒近年、映画やテレビドラマなどにも多数出演しているダンサー・田中泯氏を招聘し、新たな客層の獲得を狙った。

② 地域作家を紹介する。

⇒全国的な評価を受けていた時期もあり、作品の力量も十分でありながら、認知度の低いマイナーな地域作家を紹介した。訪れた県外の美術館関係者からは非常に良いという印象を与えることが出来た。

③ 展覧会に連動した地域美術史の探求

⇒加藤氏を調査する経過で、NOMO グループ前に活動していた「グループQ」の活動が分かって来た。これまで不明とされていた、同グループの結成や解散時期、または活動、人員などが判明した。

□展覧会で行なった新たな試みと成果

① プロモーション動画の制作

⇒市内業者に委託し、加藤氏のインタビューと作品写真による動画を制作。youtube にアップし、フェイスブックにてリンクを貼り、閲覧者により拡散できるような仕組みも整えた。

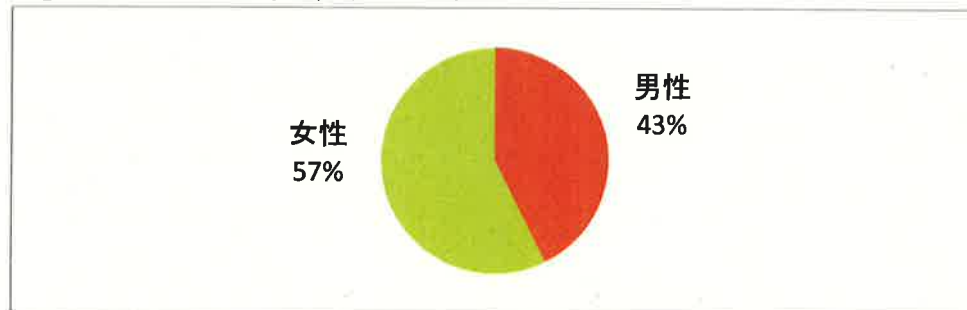
⇒館外にて動画を上映。…本庁 1 階の大型モニター、前橋プラザ元気 2 1・1 階、JR 前橋駅北口に新たにできたデジタルサイネージ。

⇒本庁の昼休み時の庁内放送にて関連イベントの告知

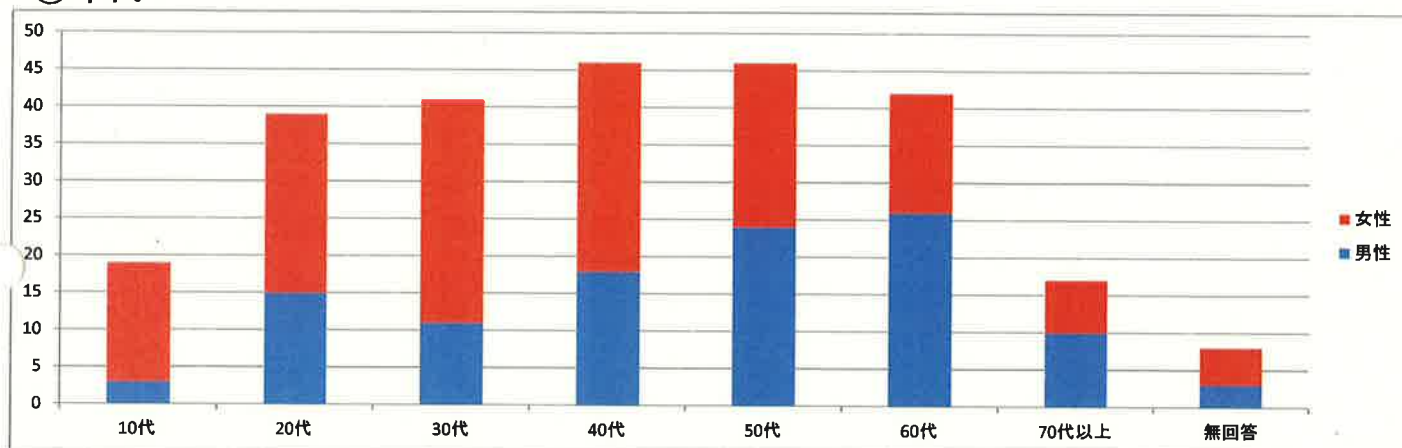
□アンケートの集計からの評価と反省点

マイナーな作家を取り上げた本展であったが、集計からは男女とも「満足」という回答を得られた。この数字は、一日平均入場者数で本年度最も高かった「前橋の美術 2017」展よりも割合としては高い。また本展で加藤アキラを初めて知って感動したという感想も散見でき、ねらいの②については一定の成果を挙げられたと思う。同様に、ねらい①についても、田中泯の踊りを目当てに来場された方の回答も確認でき、2 日間のイベント入場者数からも一定の成果を得られた。

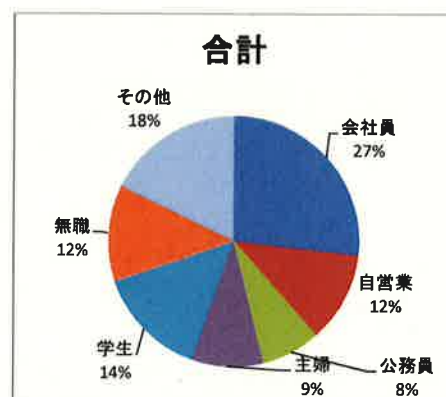
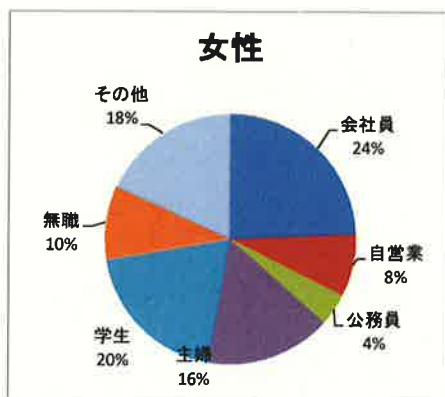
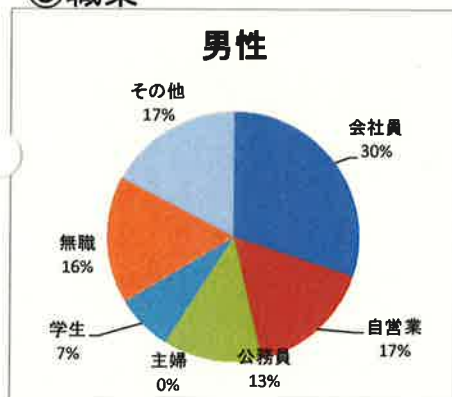
①アンケート回答数(258人)



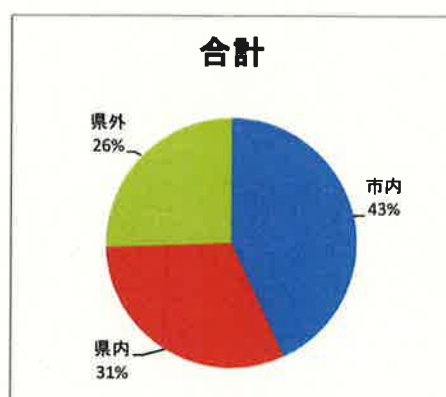
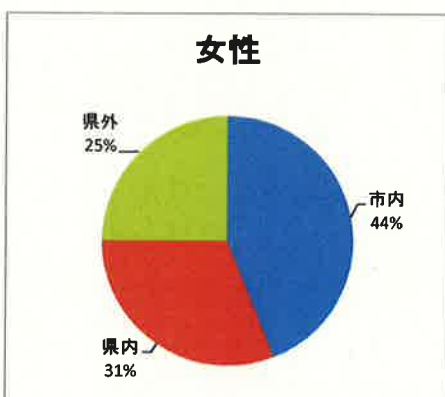
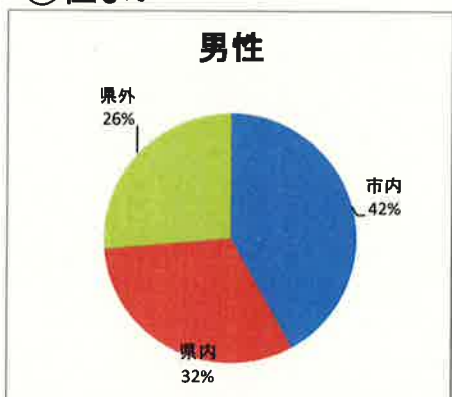
②年代



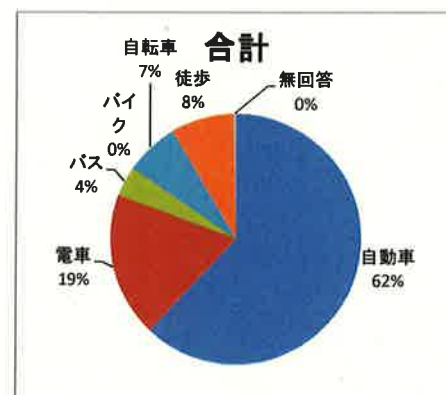
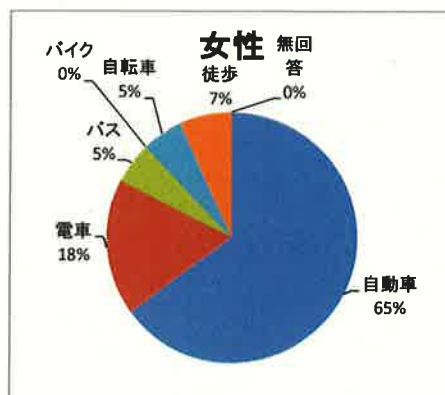
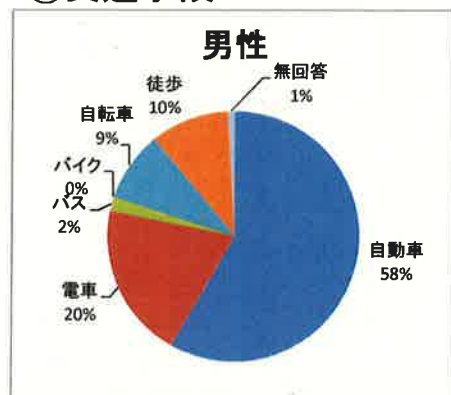
③職業



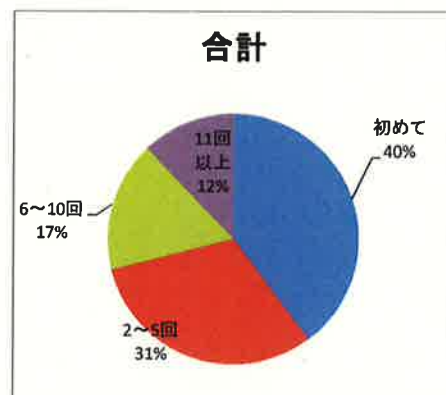
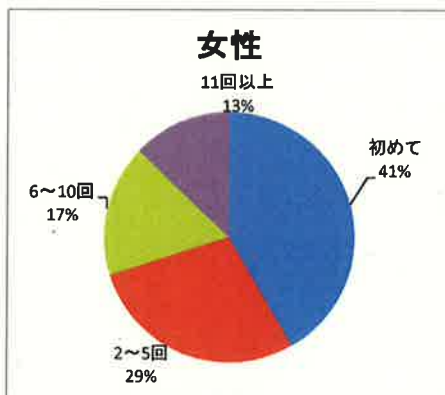
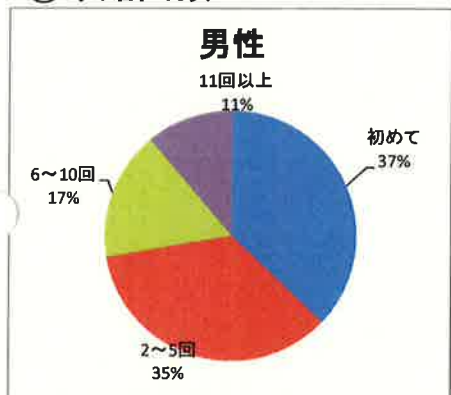
④住まい



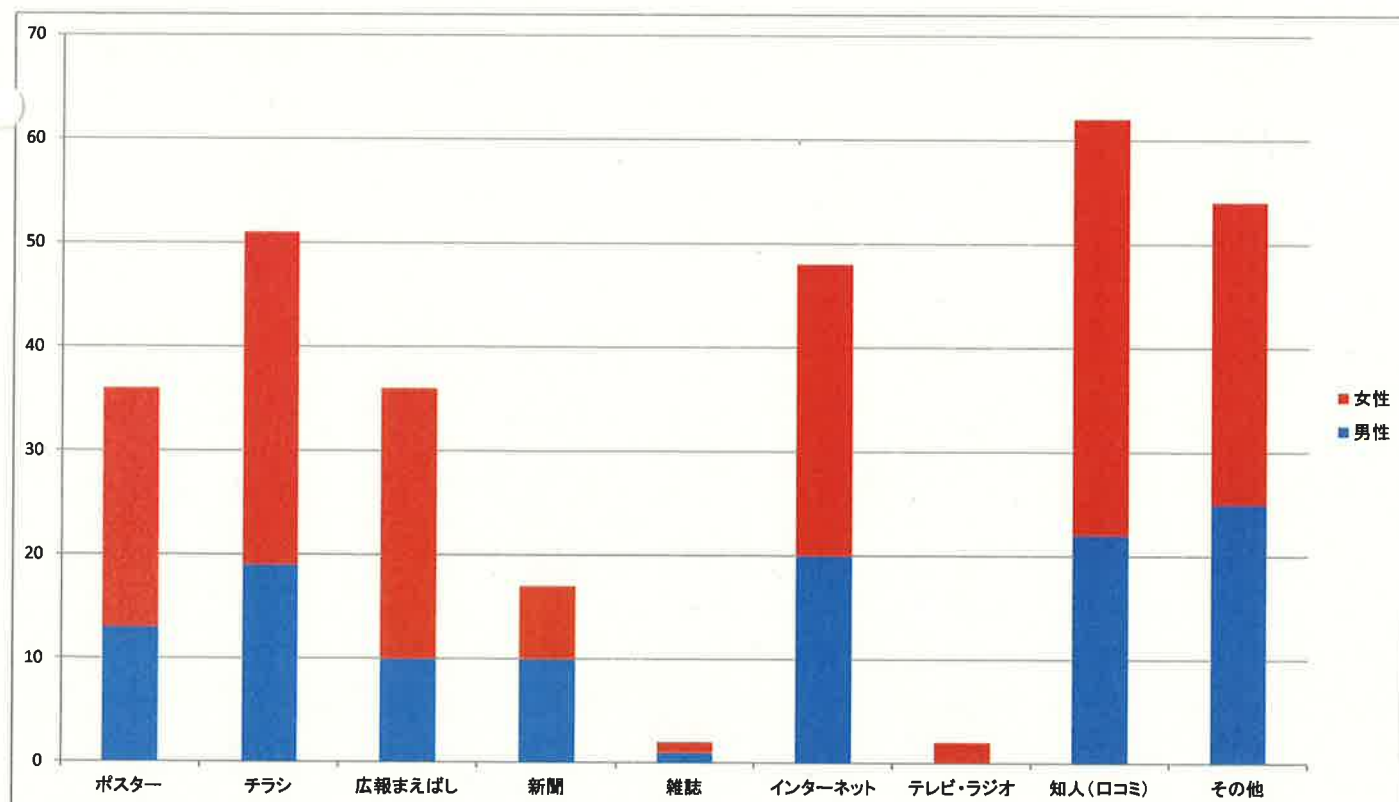
⑤交通手段



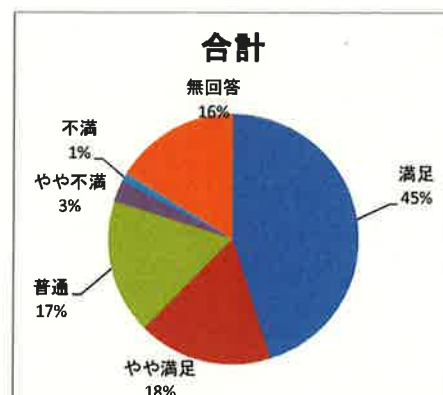
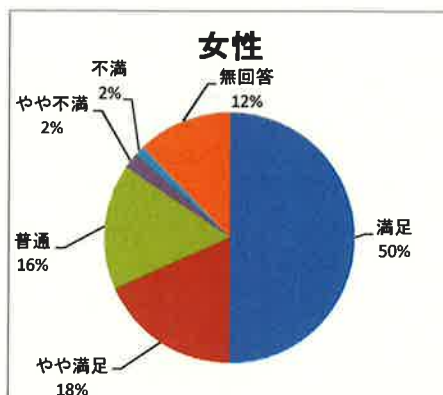
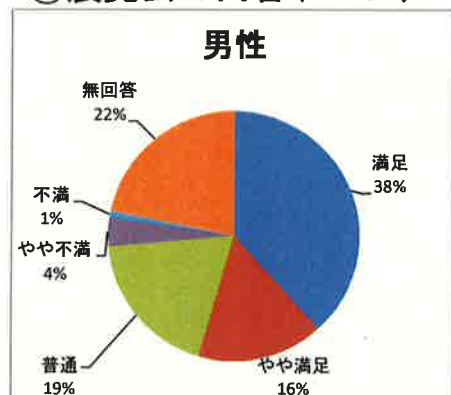
⑥来館回数



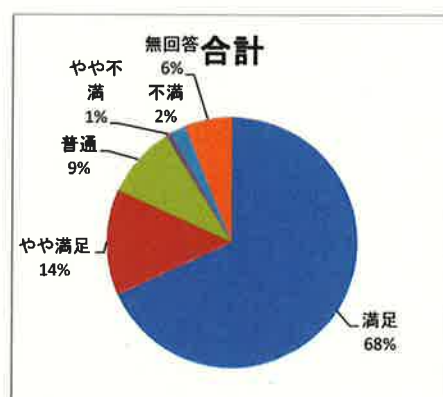
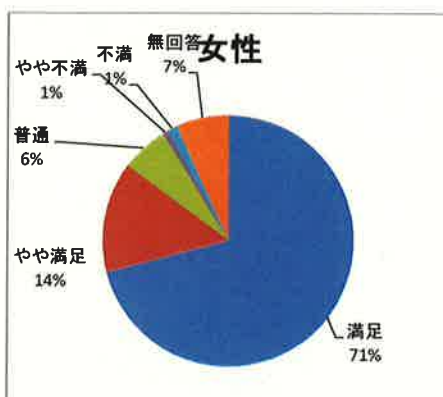
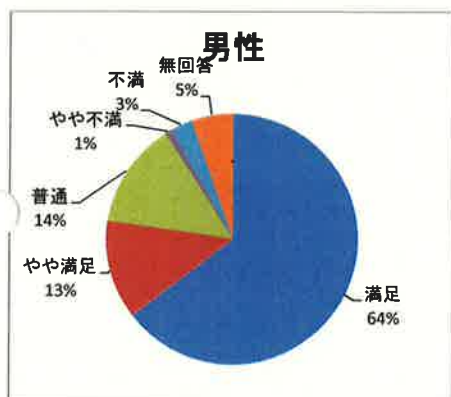
⑦企画展等を知った方法(※複数回答あり)



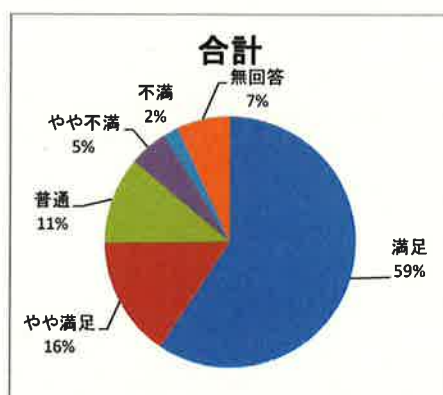
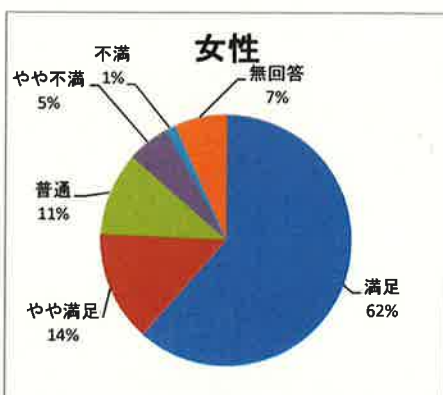
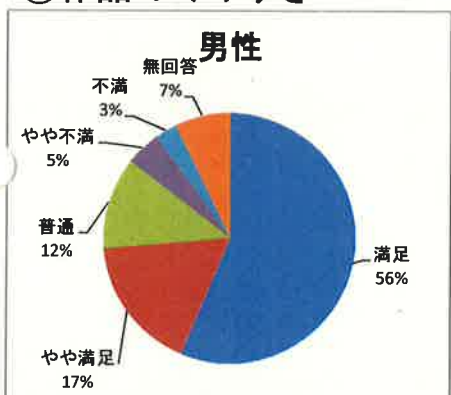
⑧ 展覧会の内容 (AM04)



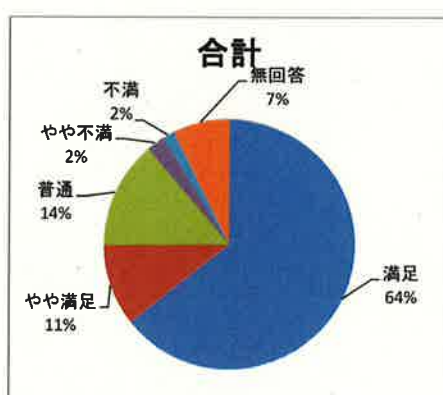
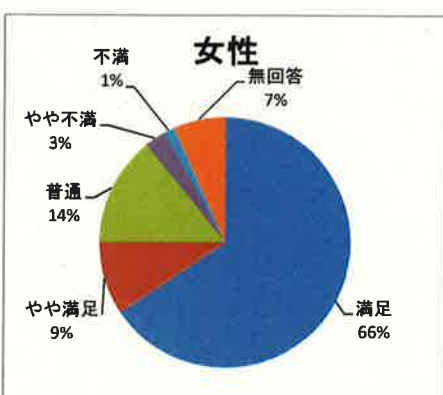
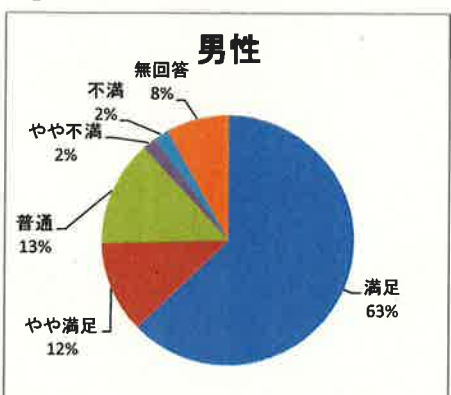
⑧ 展覧会の内容 (加藤アキラ)



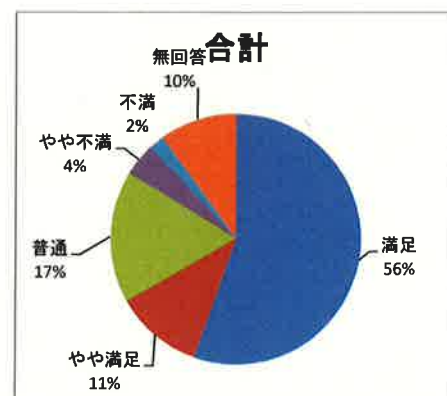
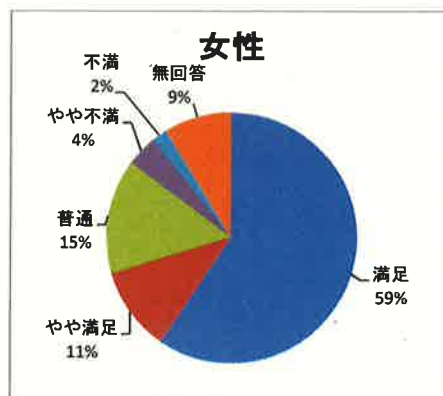
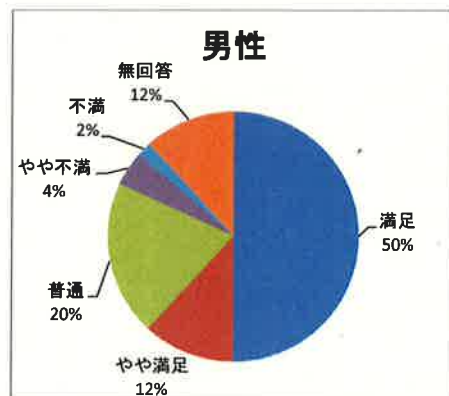
⑨ 作品のみやすさ



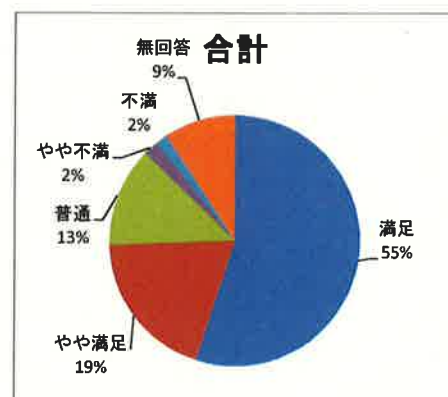
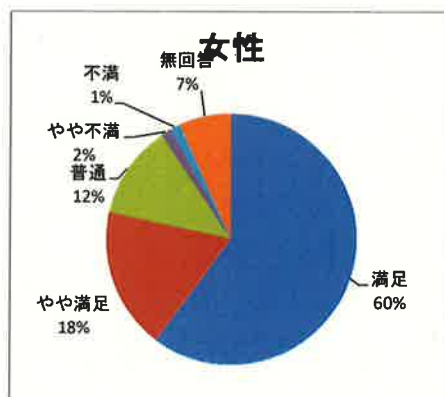
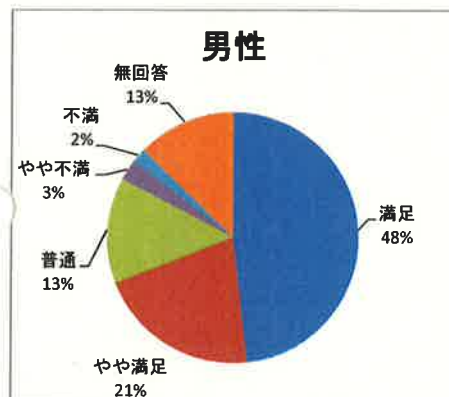
⑩ スタッフの対応



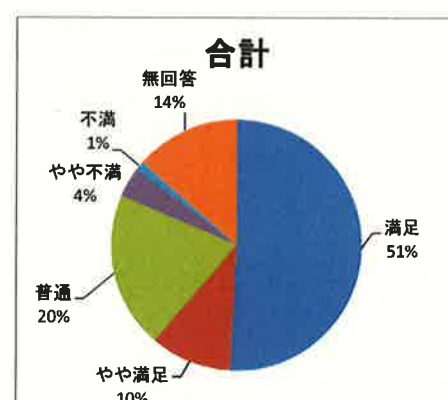
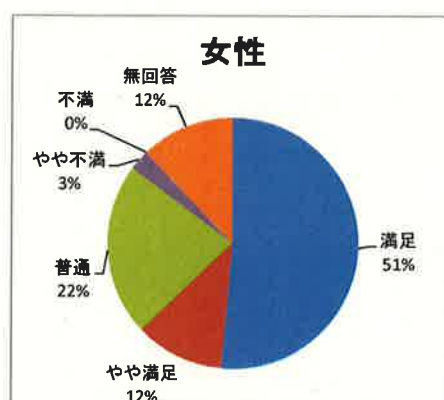
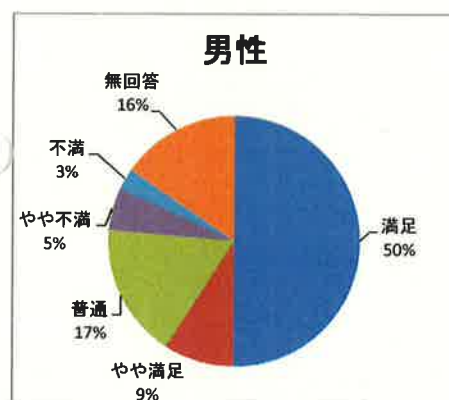
⑪施設の利用のしやすさ



⑫アーツ前橋全体の印象



⑬アーツ前橋までの道順のわかりやすさ



(Art Meets 04 田幡浩一／三宅砂織)

- 多彩な表現の方法を見せていただきました。(女性・30代)
- いい組合せ(男性・30代)
- 毎回見てみたいと思う程興味がわきました。(女性・30代)
- 田幡さんも三宅さんもとても興味深く、冊子があるのも良いと思いました。(女性・30代)
- 説明(案内)がほしい。(男性・40代)
- ギャラリーツアーに参加してわかったことが多い(女性・50代)
- whiteの3作品が面白かったです。たしかに見えるのに角度や光で見えなくという表現の仕方もあるのかと勉強になりました。(女性・10代)
- タナベ(加筆:田幡)さんの白えんぴつドローイングが素直に面白かった。(女性・30代)

(加藤アキラ 孤高のプリコルール)

- 作品と作者の言葉が展示してあることで、理解が深まった。』(女性・20代)
- 年代を感じさせない作品と、展示の仕方がそれをカバーしている様に思えて良かった。(女性・60代)
- 加藤アキラさんは、今日初めて知ったが、とても興味深い芸術家だなと思った。(男性・20代)
- 加藤さんの情勢や制作への熱い力を感動致しました。すばらしい作品群を見て私自身も気力を出す勇気をもらいました
- 田中泯さんに会いたくてきました。(女性・50代)
- 今まで見た現代美術の作品で一番感動しました。恥かしながらこんなすごい人がいるなんて驚きました。ありがとうございます(女性・50代)。

コレクション展 新収蔵作品を中心に

展覧会の概要

アーツ前橋では、地域ゆかりの作家や展覧会などのアーツ前橋の事業に参加した作家を中心に作品を収集しています。2016 年度は新たに、地域ゆかりの作家として池田カオル、井田秋雄、木暮伸也、金子英彦、展覧会事業に関連した作家のなかから、廣瀬智央、水谷俊博の 7 作家 64 点を収蔵しました。

本展ではその一部を紹介するとともに、アーツ前橋開館以前から前橋市が収蔵している作品を展覧します。

□会 期：2017 年 6 月 15 日（木）～9 月 26 日（火） 開館日数：90 日

□開館時間：11 時～19 時

□休 館 日：毎週水曜日

□会 場：アーツ前橋 ギャラリー 1

□観 覧 料：無料

□主 催：アーツ前橋

□出品点数：17 点

□出品作家：池田カオル*、井田秋雄*、久保繁造、近藤嘉男、清水刀根、武澤久、田中恒、南城一夫、廣瀬智央*、深谷徹、福田貂太郎、水谷俊博*、
*印：2016 年度新収蔵作品

□印 刷 物：■ポスター：1,000 部《A3 判縦》

□関連イベント：

①こどもアート探検

日時：6 月 25 日（日）14 時から

集合場所：アーツ前橋 1 階総合案内前

参加費：無料

対象：小学生以下

②学芸員によるギャラリートーク

日時：7 月 9 日（日）14 時から

集合場所：アーツ前橋 1 階総合案内前

参加費：無料

主な出品作品



井田秋雄《かしぐね》2000年 アクリル、カンヴァス



池田カオル《記憶の中の今》 2003年 乾漆

コレクション+

アートの秘密 私と出会う5つのアプローチ

展覧会の概要

アーツ前橋では開館前から、収蔵作品に若手作家の作品などを加えたテーマ展示〈コレクション+〉を開催してきました。本年度は、近隣美術館や個人所蔵家のご協力のもと、さまざまな鑑賞体験を紹介する展覧会を開催します。

この展覧会は、「対象」「社会」「作家」「他者」「自己」と出会うという5つのテーマで構成し、鑑賞者が自分の目でよく見て、体感し、考えることで、作品をよく見るということを目指す展示を目指します。ひとつの作品との出会いによって、新しい自分に気づき、世界が違って見えてくる、というアートの魅力を伝えます。

□会 期：2017年7月21日（金）—2017年9月26日（火） 開館日数：59日

□開館時間：11時～19時

□休 館 日：毎週水曜日

□会 場：アーツ前橋 地下ギャラリー

□観 覧 料：一般500円（300円）／学生300円／65歳以上300円／高校生以下無料

（ ）内は10名以上の団体料金

※以下の方は無料でご入場いただけます。

障害者手帳をお持ちの方と介護者1名

□主 催：アーツ前橋

□出品点数：約50点

□無 料 日：8月19日（土）（夏休みキッズフェスタ）

□出品作家：木暮伸也、瑛九、平尾峰春、伊藤三枝、金井烏洲、小室翠雲、青柳琴僊、福田貂太郎、中村節也、有村真鐵、ピカソ、池田カオル、照屋勇賢、福沢一郎、三輪途道、長重之、伊藤存、金子英彦、白川昌生、島地保武、山城大督など

□展示構成：①対象と出会う

写真、版画、工芸などの多様な表現を紹介し、鑑賞者が作品の色や形、素材などを注意深くみることで見えてくることを紹介します。

木暮伸也、平尾峰春、伊藤三枝ほか

②社会と出会う

南画を紹介しながら、作品の評価は時代や社会、あるいは国際関係などによっても評価が変わっていることを紹介します。

金井烏洲、小室翠雲、青柳琴僊、ピカソ、中村節也、有村真鐵ほか

③作家と出会う

ひとりの作家を、個人史とつなげて作品を展示し、長い画歴の中で絶えず変化し続けている作家の表現を紹介します。

福沢一郎

④他者と出会う

いわゆる「現代美術」といわれる作家たちは、めまぐるしく変化する世界と自分との間で絶え間ない対話をしながら、作品を制作しています。作品を見ることで、自分の感じ方と他人の感じ方の違いを考えます。

白川昌生、伊藤存、三輪途道、金子英彦、長重之ほか

⑤自分と出会う

作品を見るのは「視覚」だけではありません。聴覚や嗅覚、触覚などを駆使し、身体全体で作品を感じることを提案します。

島地保武（ダンサー）の展示。

□印刷物：■ポスター：1,500部《B2判》 ■チラシ：60,000部《A4縦》
■セルフガイド：4,000部《B5相当24ページ》

□関連イベント：

①おしゃべりアートウィーク

日時：9月18日（月・祝）～24日（日）

会場：展示室内（要観覧券）

内容：アーツナビゲーターと一緒に、作品について気づいたこと、感じたことなど自由に話ながら、自分以外の誰かと作品と一緒に見ることの楽しさを味わいます。

参加方法：前日までに電話申込み

②島地保武 パフォーマンス（未定）

日時：決まり次第、公式サイト、フェイスブック等でお知らせします。

会場：展示室内

内容：参加アーティストの島地保武が展示室内に出没し、パフォーマンスを行います。時間は未定。

参加方法：無料（要観覧券）／申込不要

③ワークショップ付きギャラリーツアー “六感ラボ／Sixth Sense Laboratory”

内容：普段の自分の感覚をより敏感にさせるワークショップを行ったあとに展覧会を鑑賞する。

日時：8月11日（金・祝）14時から16時半

講師：山城大督

会場：展示室ほか（要観覧券）

対象：中学生以上 定員：16 名

申込方法：事前申込制／電話で申込ください

④ “ミュージアムの秘密” 館内バックヤードツアー

内容：ふだんは入ることのできない美術館（ミュージアム）の裏側をご案内し、展示や施設の日罪をお見せします。

日時：8 月 5 日（土）、8 月 27 日（日） 14 時～15 時 30 分

定員：20 名

⑤ こどもアート探検

内容：学芸員やサポーターと一緒に作品を見て話しながら、作品を鑑賞します。

日時：8 月 19 日（土）14 時～15 時

対象：小学生以下

参加費：無料／申込不要

⑥ ほか、調整中

地域アートプロジェクト 滞在制作事業

【報告】

平成 28 年度は、海外在住アーティスト 2 名（アンナ・ウィット、ルイサ・ウンガル）、及び公募により選定した群馬県にゆかりのあるアーティスト 1 名（梅沢英樹）を招聘した。

vol.10 ルイサ・ウンガル

コロンビア出身で、現在はオランダを拠点に活動するアーティスト、ルイサ・ウンガルを招聘し、滞在制作を実施した。2 か月の滞在中、地域の残る民話の中で、特に動物が象徴的に出てくる話に興味をもち、稲荷神社にまつわる民話や継承されているお祭り、郷土芸能などを調査した。最終的に、ドローイングや映像、写真などのリサーチの過程や素材をオープンスタジオで公開するとともに、トークイベントを行った。

□滞在期間：2017 年 3 月 7 日（火） — 5 月 6 日（土） 計 61 日間

□滞在拠点：堅町スタジオ

□参加作家：ルイサ・ウンガル（コロンビア生まれ、コロンビア・ボコダ、及びオランダ・アムステルダムを拠点に活動）

□関連事業：リサーチの過程や素材を公開するオープンスタジオとアーティストトークを行った。

①オープンスタジオ

日 時：5 月 4 日（木・祝） 13 時～19 時

場 所：堅町スタジオ

参加者数：32 人

②アーティストトーク

日 時：5 月 4 日（木・祝） 14 時～15 時

場 所：堅町スタジオ

参加者数：31 人



【進捗状況】

平成 29 年度は、海外在住アーティスト 2 名、公募により選定した群馬県にゆかりのあるアーティスト 2 組を招聘する。

（1）海外在住のアーティストによる滞在制作事業

平成 26 年度より、海外在住のキュレーター、アーティストに候補作家を推薦していただき、アーツ前橋内で選定している。下記の 5 名の推薦委員より推薦された 21 名のアーティストの中から選定した。

■ 推薦委員

ポーリン・ヤオ（M+キュレーター／香港）、クウォン・ジン（キュレーター／韓国）、
照屋勇賢（アーティスト／アメリカ在住）、かないみき（アートジャーナリスト／ドイツ
在住）、ソービン・ヤップ（キュレーター／マレーシア）

vol.11 ケレン・ベンベニスティ Keren Benbenisty

イスラエル出身で、現在はニューヨークを拠点に活動するケレン・ベンベニスティを 6 月 4 日から招聘し、現在滞在制作中である。これまでもケレンの作品のテーマとしてよく扱われる「水」を中心に、前橋市の中心を流れる広瀬川や利根川の変遷や水質をリサーチするとともに、かつて前橋で盛んだった絹産業における、当時の生活や産業と水の関係についてリサーチを行い、最終的にはオープンスタジオとアーティストトークを実施する予定です。



□リサーチ期間：平成 29 年 4 月 11 日から平成 29 年 4 月 19 日まで（9 日間）

□滞在制作：平成 29 年 6 月 4 日（日）から 8 月 3 日（予定）

□滞在所：堅町スタジオ

□アーティストプロフィール

現在はニューヨークを拠点に活動しているアーティスト。1977 年イスラエル生まれ。

1998 年にパリに移住。2004 年にエコール・デ・ボザール（フランス）卒業。2009 年

スカウヒーガン絵画彫刻学校（アメリカ）、2011 年インターナショナル・スタジオ&キュラトリアルプログラム（アメリカ）、2016 年レジデンシー・アンリミテッド（アメリカ）などで滞在制作を行う。これまで、エリザベス・ファウンデーション・フォー・アーツ（アメリカ）、テアルビブ美術館（イスラエル）、ドローイング・ビエンナーレ（エルサレム）など、様々な国や地域の美術館やギャラリーでのグループ展に参加。またアメリカ、フランス、韓国、ドイツでも個展や二人展を行っている。

（２）群馬県ゆかりのアーティストによる滞在制作事業

群馬にゆかりのあるアーティストに対し、地元での制作環境を支援することを目的に、平成 27 年度から「群馬県にゆかりのあるアーティスト」に条件を絞って公募を行っている。

平成 29 年度は、「プログラム A（30 歳以下）」を新設し、以前から実施している年齢制限無しを「プログラム B」として募集した。

■ 審査概要

応募期間：2017 年 4 月 10 日（月）～5 月 7 日（日） ※当日消印有効

審査会：2017 年 5 月 18 日（木）

応募件数：9 件

審査員：岡部あおみ（美術評論家／パリ日本文化会館展示部門アーティストティックディレクター）／白川昌生（アーティスト）／田中龍也（群馬県立近代美術館 学芸員）／住友文彦（アーツ前橋 館長）

■ 応募状況（平成 27 年度、28 年度との比較）

- ・ 応募者数は今までで一番少なかった。（28 件→12 件→9 件）。
- ・ 継続して毎年応募する応募者の割合が少ない。（例年 2 件のみ）
- ・ 若手の応募を期待し、「30 歳以下」のプログラムを新設したが、30 歳以下からの応募は 2 件のみであった。
- ・ 20 代、30 代、40 代からの応募の割合が毎年多く、今年度は 30 代からの応募が最も多かった。50 代、60 代はともに 1 名ずつであった。
- ・ 海外在住のアーティストからの応募は 1 件であった。

■ 審査員所感及び次年度に向けてのコメント

- ・ 応募者は減っているが、応募するアーティストの作品の質はあがっている。
- ・ 滞在期間が決まっている中での公募であるため、スケジュールの都合により応募が出来ないアーティストも多いのではないか。

- ・ アーツ前橋自体の認知度があるため、募集期間を早くするだけ、応募者数が増えるではないか。
- ・ 来年度も30歳以下のアーティストを対象とする公募は実施した方がよいだろう。
- ・ 招聘期間をアーティストの要望により柔軟にできることが望ましい。海外からの招聘アーティストの日程を早めに決定し、スタジオが開いている期間で柔軟に招聘できるような対応をした方が良い。
- ・ 招聘年度に公募をするのではなく、前年度に翌年度の公募を行えるように、スケジュールを調整する方が良い。

岡部あおみ（美術評論家／パリ日本文化会館展示部門アーティストティックディレクター）

今年ヴェネチア・ビエンナーレの金獅子賞はドイツ館の強烈なパフォーマンス、アテネ市内で開催されたドクメンタも、コンサートやパフォーミング・アーツに力を入れていた。今回、アーツ前橋のレジデンス応募者も演劇やコンテンポラリー・ダンス分野のクリエイターがいた。前回より応募数は少ないものの、みな魅力にあふれたプロジェクトを提出し、実力を感じさせる候補者ばかりだ。惜しくも落選した方々は、ぜひまたトライしてほしい。実際に作品に出会える現代アート展が国内外で盛んになってきた要因も、今日横溢するデジタルなイメージのただ中で、私たちがいかにリアルな感動を求めているかを痛感させる。さらに1960-70年代への再考が開始しているのは、日常、社会、芸術を抱合する総合的かつ新たな創造のあり方への模索であろう。そうした方向性を秘めた衣真一郎氏と尾花藍子氏の前橋での充実した活動と飛躍に期待している。

白川昌生（アーティスト）

今回は20-30歳代の作家がほとんどで9人が応募して来た。作品のレベルはかなり高くなり、選択することが難しかった。レジデンスできることのメリットなどをこちらで、仮定して作家を選ぶことにしたので、作品そのものの良悪ではない、前橋での滞在制作を一つの軸にして選択をした。演劇、ダンスなどの応募があったのも前橋の滞在制作の可能性を広げるのではという議論も起こった。これまでのように絵画、彫刻、インスタレーションなどの作品もあったが、作品の個々のレベルが問題になるというよりは、滞在制作にどうそれが関われるかが選択のポイントになったことを、強調しておいてもいいと思う。前橋に滞在して制作することで作家、地域にも何かが起こる可能性を作家の中に想定して、選ぶという作業はなかなか大変であったことも言っておきたい。作品レベルがかなり高い水準に上がって来た現状では、選抜が簡単ではなかったし、色々な議論が起きていたからである。

滞在期間の作家からの選択についても、今後はそれを変えてより広く年齢幅のある参加ができるようにしたいという議論もでて、今後の応募の仕組みなどの改変なども議論された。

田中龍也（群馬県立近代美術館 学芸員）

衣真一郎さんについては、これまで何度か作品を目にして注目していましたが、今回の滞在制作が今後地元での活動の足がかりになることを期待します。ダンスカンパニーときかたちについては、ダンスの「新たな公演の形」を模索するという問題意識に興味を持ちました。身体表現を行うグループであるということも、これまでと違う滞在制作の在り方を示してくれる可能性を感じます。

滞在制作とは、もちろんそこで何をするかという目的を明確に持つことも大事ですが、滞在中を通して新たな人とのつながりが生まれることがより重要だと思います。それが作家としての活動の幅を広げていくのだと思います。前橋にはきっと多くの出会いが待っています。

住友文彦（アーツ前橋 館長）

今年は実は昨年よりも応募数が少なかったのが不安があったのですが、ファイルを見てまったくの杞憂と知りました。かなりレベルが高く、選考の意見も分かれ、とても悩ましい選択でした。とくに、それぞれの作家のキャリアにおいて意義がありそうか、滞在制作の仕組みや地域性を活かした提案か、そうしたいくつかの重視する点においても興味深い作家が多かったと思います。

そのなかで、これまでなかった身体表現の分野でしかもグループで活動する展開に期待してダンスカンパニーときかたちが選ばれました。どのように堅町スタジオを使いこなし、新しい作品の制作をおこなうのか、とても楽しみにしています。それと若手支援を明確にするためにはじめて30歳以下のカテゴリーを設置しましたが、衣さんは作品のための取材と生活の場所が近づくことでどんな活動ができるのか期待しています。

今後も、もちろん若手だけでなく、幅広く堅町スタジオを使ってくれる群馬県ゆかりのアーティストのご応募をお待ちしています！

■招聘アーティスト

vol.12 衣 真一郎 KOROMO Shinichiro

群馬県伊香保出身で、現在は埼玉を拠点に活動しているアーティスト。風景の中にあらわれる建物や都市、人の生活の営み、人工物と自然物の関係を通し、地域の状況を表すような絵画作品を制作する。現在も月に1回、群馬のリサーチをしており、前橋での滞在制作では、大胡町出身の横堀角次郎のリサーチを行い、作品を制作する予定。

□招聘期間：2017年8月29日（月）～10月1日（日） ※予定

□アーティストプロフィール

1987年群馬県渋川市伊香保町生まれ。2013年東京造形大学絵画専攻卒業。2014-15年パリ国立高等美術学校交換留学。2016年東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。風景や静物、人、建物等の身近にあるものをモチーフに絵画と立体による作品を制作。近年の主な展示に、2017年「群馬青年ビエンナーレ2017」群馬県立近代美術館（群馬）、2016年個展「Town」 switch point（東京）「アートアワードトーキョー丸の内2016」（東京）「corner」 See Saw gallery+cafe（愛知）、2015年「Choque Parisien」 パリ国際大学都市日本館（パリ）など。



vol.13 ダンスカンパニー ときかたち 代表：尾花藍子 OBANA Aiko

群馬県出身のダンサーがメンバーとして所属する、ダンスカンパニーときかたち。代表の尾花は、アーツ前橋の開館前のイベントで実施したダンス公演や、コミッションワーク《いつもの時間》に出演。当初から予定していた10月に行うダンス公演のブラッシュアップを前橋滞在中に実施する予定。

□ 招聘期間：2018年2月5日（月）～3月25日（日） ※予定

□ アーティストプロフィール

尾花藍子主宰のダンスプロジェクト。2015年より発足。メンバーである群馬県高崎市出身の安藤暁子らと共に、東京都墨田区のシェアハウス&スタジオ〈LAB83〉を拠点に活動を展開。<http://tokikatachi.com>

□ 尾花藍子 プロフィール

ダンスカンパニー〈ときかたち〉主宰。シェアハウス&スタジオ〈LAB83〉代表。美大絵画学科卒業後、身体を使った行為表現を路上で始める。美術・プロジェクト作品発表を経て、近年は主に振付家・演出家として活動。「環境に振り付けられる身体」を軸に、文化的背景を内包した様々な「場」で作品を創作。各々の表現媒体の特徴を活かし、表現や思考の可能性を広げる活動を展開。若手演出家コンクール2014ノミネート。横浜

ダンスコレクション 2016 コンペティション I ファイナリスト。

<http://apiece7.blogspot.com>



前橋の大地における「芽吹き祭典」

FOODS, CRAFTS & ART

前橋めぶくフェス



MAEBASHI MEBUKU FESTIVAL

6.25 Sun.
12:00
20:00

前橋中央通り商店街

Maebashi Mebuku Festival will start
from Chuo-dori shopping street.

前橋めぶくフェスとは、

未来の大樹を隠し持つ、今はまだ幼い芽を発掘し、紹介し、
みんなで応援するためのお祭りです。



FOOD



CRAFT



ART

主催 前橋めぶくフェス実行委員会

共催 前橋中央通り商店街振興組合／前橋市まちづくり公社／前橋市

お問合せ info@machinaka.agency

めぶく  前橋市